

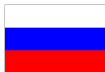
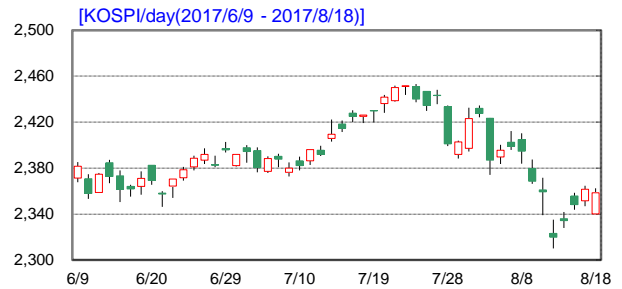


【韓国】 総合指数は週間で1.7%高と4週ぶりに反発、北朝鮮リスクが後退

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.7%高と4週ぶりに反発。先週は15日が解放記念日（光復節）で休場のため4日間の立ち会いで、週明けから休場を挟んで3日続伸と総じて堅調に推移した。前週末に約2カ月半ぶりの安値で引けたことを受けて、週初の14日に主力のハイテク株や金融株が買い戻されると、16日以降は北朝鮮情勢を巡る地政学リスクに対する警戒感の後退や米株式市場での株高を背景に買い安心感が広がり、ハイテク株や鉄鋼株を中心に買いが入った。18日は反落したものの、主力株の押し目買いなどによって下値は限られた。今週は21日に7月の生産者物価指数（PPI）が発表される予定。地政学リスクへの警戒感は後退しているが、21日から韓国で米韓合同軍事演習が始まれば、再燃する可能性がある。

▼指数チャート

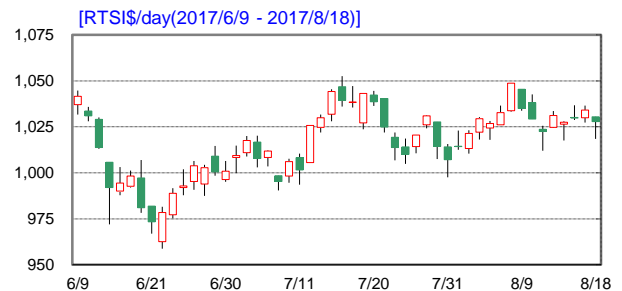


【ロシア】 RTS 指数は週間で0.5%高と反発、今週は米朝リスクと原油価格次第か

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で0.5%高と反発。前週に原油価格の下落とともに反落した RTS 指数は、北朝鮮リスクと不安定な原油価格を背景に、やや振れ幅の大きい値動き。11日のラブロフ外相の発言を機に、週明け14日は反発したが、15日は7月の鉱工業生産が市場予想の前年同月比3.3%増を大幅に下回る1.1%増にとどまったことで、場中に前日比1.3%安1017.64ドルまで下落。16日は51ドル前後で安定したブレント原油価格を支援材料に1036.65ドルまで値を戻したが、前週の高値には届かなかった。スペインのバルセロナでテロが発生したことも嫌気され、18日には1018.50ドルまで下落したが、値ごろ感から1027.85ドルまで値を戻し、週の取引を終了した。今週は米朝リスクと原油価格動向次第だが、買い優勢か。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は0.4%安と続落、今週は米朝リスクを意識してもみ合いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.4%安と続落。前週に3週ぶりに反落した指数は先週ももみ合う展開。北朝鮮リスクは11日のロシアの外相発言を受けてやや後退し、週明け14日は小幅に反発。その後17日前場までは、前週末終値を挟んでもみ合ったが、後場には軟調な推移で下げ幅を広げた。この日に新規上場してVN指数に組み入れられたVPバンクが商いを集めたが、他の銀行株が下落した。18日は前夜の米株式市場の大幅な反落を受け、VN指数は寄り付き直後に下落。その後は上昇に転じ、前日比0.2%高の768.97ポイントで週の取引を終えた。個別では上述のVPバンクが基準価格と変わらずで上場初日を終えたものの、18日は4.6%安となり指数の上値を抑えた。今週は米朝のリスクを意識しつつ、もみ合う展開か。

▼指数チャート



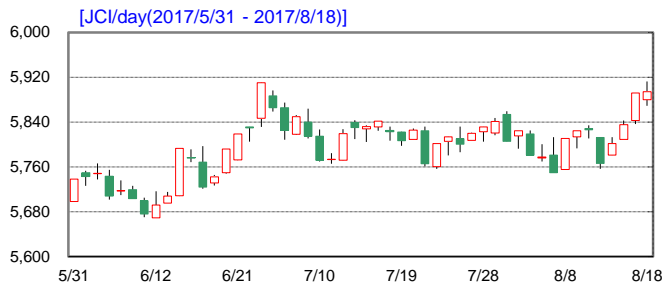


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.2%高、18 日の場中に過去最高値を更新

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 2.2%高と 3 週ぶりに反発。週初から 4 日続伸と好調だった。14 日は前週末に大きく下落した反動で買われ、指数は終値で 5800 ポイントを回復。15 日は 7 月の輸出が、断食明け大祭の大型連休で貿易額が少なかった前年同月に比べて 41.1%増加し、市場予想を上回ったことが好感された。16 日は北朝鮮情勢を巡る緊張がやや緩和したことを受けて前日比 1.0%上昇すると、祝日を挟んだ 18 日には場中に一時、過去最高値を更新する場面もあった。今週は 22 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、政策金利は 10 会合連続で 4.75%に据え置かれるとの見方が優勢。

▼指数チャート

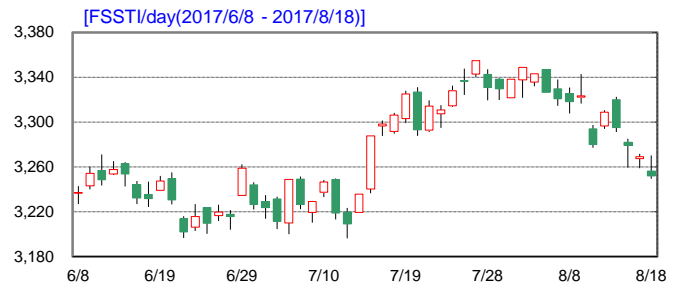


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.8%安、今週は 7 月の CPI と鉱工業生産発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.8%安と 3 週続落。総じて軟調な値動きだった。週初の 14 日は前週末の NY ダウが 4 日ぶりに反発したことで買い戻されたものの勢いは続かず、15 日は反落。17 日は 7 月の非石油地場輸出が前年同月比 8.5%増にとどまり、市場予想から下振れしたことが嫌気された。18 日は前日の NY ダウがトランプ政権の先行き不透明感増大とスペインでのテロ事件発生を受けて大幅反落した影響で 4 日続落して取引を終了。今週は 23 日に 7 月の CPI、25 日に鉱工業生産が発表される予定で、鉱工業生産の前年同月比の伸び率が 6 月に続き 2 桁を維持すれば株式相場の支援材料になりそうだ。

▼指数チャート

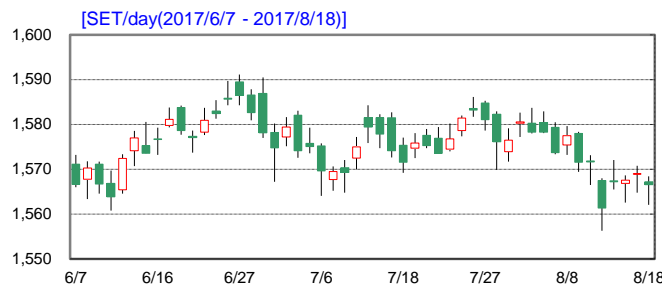


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.3%高、今週は 4-6 月期の GDP 発表

SET 指数は 4 日間の取引で 0.3%高と 3 週ぶりに反発。小幅なレンジでもみ合った 1 週間だった。連休明けの 15 日は前日の NY ダウが大幅続伸した流れを引き継ぎ反発。16 日は中央銀行が発表した政策金利が市場の予想通り 1.50%に据え置かれ、指数は前日からほぼ横ばいだった。17 日は前日に公表された FOMC 議事録でインフレ率の伸び悩みが焦点となり、利上げペースが減速するとの見方が広がったことで買われたが、18 日は 4 日ぶりに反落して取引を終えた。今週は 21 日に発表された 4-6 月期の GDP (前年同期比 3.7%増) に対する市場の反応が注目される。23 日には 7 月の貿易統計が発表される予定。

▼指数チャート

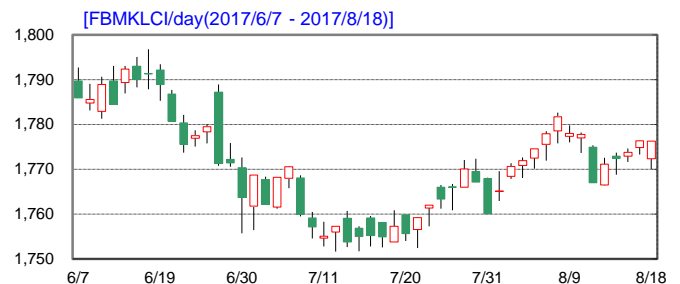


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.5%高、4-6 月期の GDP 成長率は前年同期比 5.8%

クアラルンプール総合指数は週間で 0.5%高と反発。週末に GDP 発表を控えた期待感からじりじりと上値を広げた。週初の 14 日は値ごろ感のある銘柄が買われて、指数は 4 営業日ぶりに反発。その後は 17 日まで 4 日続伸したものの 18 日は前日の NY ダウが大幅に下落した影響で指数はわずかに反落。4-6 月期の GDP 成長率は前年同期比 5.8%と市場予想の 5.4%から上振れしたが補えなかった。今週は 23 日に 7 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率の市場予想は 6 月を下回る 3.4%。物価上昇圧力が和らげば株式相場の追い風になりそう。前週末の為替がドル安リング高に傾いたことは好材料。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。